

スロバキア出張報告

日本学術振興会の平成13～14年度共同研究プロジェクト「スロバキアと日本における出生率低下の地域的展開に関する研究」(研究代表：岐阜大学小林浩二教授)における研究活動の一環として、平成14年5月13日～23日までスロバキア共和国に出張した。今回の出張では、コメニウス大学の共同研究者(研究代表：コメニウス大学ヨゼフ・ムラーデク教授)が事前に行った人口問題に関する調査を受け、調査の一次集計結果の討論、調査地(首都ブラチスラバ郊外の2地域(マラツキ、シャモリン))の視察および役場でのヒアリングが主たる目的であった。ただし、このほかにも、スロバキアの統計局および人口研究機関等を訪問する機会が得られたので、スロバキアの人口統計および人口問題の現状について、行政担当者や研究者から説明をきき、各種資料を収集した。スロバキアを含む中央ヨーロッパ諸国の急激な出生率低下は、現在、他の先進各国の注目をあびている。今回得られた知見は限られたものであったが、中欧諸国と日本との学術交流は、日本の人口問題を考えるうえでも有益であろうという印象を受けた。(清水昌人記)

2002年国際人口学会地域大会

2002年6月10～13日にバンコクのサイアムシティー・ホテルで2000年国際人口学会(IUSSP)地域大会「変動するアジアの脈絡における東南アジア人口(Southeast Asia's Population in a Changing Asian Context)」が開催された。主催はチュラロンコン大学人口学部で、Asia MetaCentre、国連人口基金(UNFPA)、ウェルカム・トラスト財団、タイ人口学会が後援した。国際組織委員長は元IUSSP会長で元フィリピン大学人口研究所長のMercedes B. CONCEPTION教授で、副委員長は現IUSSP会長でフランス国立人口研究所(INED)研究部長のJacques VALLIN博士で、運営委員長はチュラロンコン大学人口学部長のVipan PRACAHUABMOH教授であった。これはアジアではじめての地域大会であった。

同大会は3つの基調講演セッション(1つはキャンセル)、6つの主要テーマに分かれる30の一般セッションから成り、同時に基調講演セッションを含む4つのセッションが同時に開催された。最終参加者リストによれば参加者は400人弱であるが、地元参加者や後続セミナー参加者がいたためか、実際にはもう少し多かったような感じがした。日本人参加者は日本人口学会会員の河野稠果(麗澤大学)、中川聡史(神戸大学)、小川直宏(日本大学)、齋藤安彦(日本大学)、高橋眞一(神戸大学)、津谷典子(慶應義塾大学)の各氏のほか、海外から参加した大崎敬子(国連人口部)氏等を含めると10人余りであった。日本人口学会大会直後であったため日本人参加者が少なく、後述の国際会議の直前であったため、中国語圏からの参加者が少なかった。しかし、台湾のChing-lung TSAY(Academia Sinica)やフランスのJean-Marie ROBINEの両氏のように2つの国際会議に続けて参加した者もいた。

筆者は“Sustainable Urbanization, Women's Status and Religion in Southeast Asia”と題されたポスター報告をしたが、論文を持ち帰る方はいたが、しばらくして質問をする方が来ないため、親セッションにリラックスして出ていたところ、聴衆の中から質問が向けられ、座長からの指示で回答するはめになり、驚かされた。また、比較的狭いアジアの人口学界に永年いるせいも、参加者に知り合いが多いのにも驚いた。いずれにしても本大会を学術面でも社交面でも成功に導いたVipanをはじめとする運営委員会の方々に感謝したい。(小島 宏記)